

# 河野太郎デジタル大臣来校

## データサイエンスを学ぶ意義と可能性を議論



学生たちを激励する河野太郎大臣



学生代表3人が登壇

7月5日、河野太郎デジタル大臣が本学に来校し、「デジタルとイノベーション」がもたらす影響、そして「デジタル大臣」が語る新たな可能性」と題した特別講演会が開催された。会場となった6号館101教室には、約480人の学生・教職員が集まった。

はじめに河野大臣は、「DXを進めることの意義が重要な」と日本のIT業界が今後目指すべき姿を提示した。さらに、AIとデジタル技術が融合し、新たな成功を収めることができない。いかに国内にとどまらず世界の市場を見ることができ、重要な」と日本のIT業界が今後目指すべき姿を提示した。さらに、AIとデジタル技術が融合し、新たな成功を収めることができない。いかに国内にとどまらず世界の市場を見ることができ、重要な」と日本のIT業界が今後目指すべき姿を提示した。さらに、AIとデジタル技術が融合し、新たな成功を収めることができない。いかに国内にとどまらず世界の市場を見ることができ、重要な」と日本のIT業界が今後目指すべき姿を提示した。

Tベンチャーへの依存を例に挙げながら、直近20年で日本が世界に後れを取った理由について見解を述べた。

また、生成AIによるフェイクニュースの急増が学生によるパネルディスカッションを行った。生成AIに関する学内利用調査の結果が共有されたのち、学ぶうえで生成AIとどう向き合うべきか、またAIが発達する今こそ学ぶべきことは何かについて率直な意見を交わした。

質疑応答では、会場から130件にも及ぶ質問が寄せられた。IT業界

# 110年のあゆみを写真とともに紹介

## 創立110周年記念サイト開設

今年、本学は創立110周年を迎えた。この節目を記念し、公式ウェブサイトに110周年記念サイトを開設した。

サイト「上智大学110th Anniversary」を開設した。理事長・学長からのメッセージのほか、学生によりデザインされた記念ロゴマークの解説や、本学の創立から現在に至る110年のあゆみなどを紹介している。

110年のあゆみでは、1913年の開学から今日までの本学の歴史をはじめ、多数の会員を、特にグローバル関連の出来事を中心に掲載。1号館竣工(32年)、教皇ヨハネ・パウロ2世来校(81年)など、当時の写真とともに紹介している。今後、現在制作中の記念動画を11月の創立記念日に合わせて掲載するほか、110周年にちなんだイベントやピックアップなどを随時公開していく予定だ。

▼110周年記念サイト

5月13日、2号館17階国際会議場において、2023年度上智大学後援会総会が開催され、役員をはじめ、多数の会員(学生・保護者)が出席した。総会では、2022年度決算、2023年度予算、および2023年度役員改選の議案3件が審議され、全てが承認された。

2023年度の予算のうち、大学への寄付の総額は3932万2千円。寄付項目には100円朝食への支援やWEB面接用ボックス「テレキューブ」レンタル費用支援が含まれるほか、家計急変者への奨学金給付、派遣した。その後、懇親会が行われ、会員同士の交流に活用される。

また、役員改選の承認に伴い、2022年度副会長であった森本聡氏(総合人間科学部4年次生保証人)が第46代会長に就任した。

総会に続き、理工学部情報理工学科の矢入郁子教授により「人工知能S大学院初年度に寄せて」と題しての講演会が室内・後援会事務局で開催され、参加者は熱心に耳を傾けた。会場から「イメージがわかる」などの声も聞かれた。

▼電話(3238)3127

▼上智大学後援会ウェブサイト

# 3大学連続ワークショップ

## ウクライナ復興そして未来を考える

### 第1回は本学で開催



上智大学、慶應義塾大学、東北大学は、国内外の連携の在り方などにおけるウクライナ復興に向けた活動状況、日本興支援に向けた具体的な議論を展開した。

6月30日、その初回となるワークショップを開催した。3大学を連続ワークショップを開催することを決定した。

はじめに、元国連広報官で国際協力人材育成センター所長の植木安弘が「ウクライナ復興そして未来を考える」が四谷キャンパスで開催された。



産学官、NGO等の専門家が一堂に会した

ウクライナ復興に関する専門家らが登壇。復興に向けた取り組みや復興支援の課題、ウクライナ復興支援の重点事項など、産学、NGOそれぞれの視点から議論を展開した。

続いて「我が国が果たすべき役割を考察する」をテーマに、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の田中浩一郎教授と、東北大学理事・副学長で同国際法政策センター長の植木俊哉

でウクライナ復興に関する専門家が登壇。復興に向けた取り組みや復興支援の課題、ウクライナ復興支援の重点事項など、産学、NGOそれぞれの視点から議論を展開した。

続いて「我が国が果たすべき役割を考察する」をテーマに、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の田中浩一郎教授と、東北大学理事・副学長で同国際法政策センター長の植木俊哉

# 後援会会長 新任のご挨拶

## 上智大学後援会会長 森本 聡



本年度、上智大学後援会会長を務めさせていただくことになりました。在学生のご父母、ご家族の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

上智大学後援会は、アイエス会所属の先生

方々が給与から最低限の生活費を除いたすべてを大学に寄付しているという献身的な姿勢を、当時の在学生父母がきっかけで1973年に発足した任意団体です。

会員は在学生の父母・保証人で構成され、学生の学修環境を少しでも改善させ、充実した学生生活を送ってほしいという善意の会費で運営されており、設立以来、会費は累計で77億円を超えています。

当会の主な活動は、父母・保証人目線による学生への支援であり、主な支援には、大学の教育環境・設備の改善援助、就学継続が困難な学生への経済的支援などがあります。具体的には、今年度

は、コロナ禍を経て定着しつつあるWEB面接用のボックスとして「テレキューブ」3台分のレンタル費用支援、キャンパス内の食堂で朝食を100円で提供する「100円朝食」などを行います。

そして、会員相互の親睦も重要な活動の一つです。懇親会では多くの先生方や会員同士の交流が可能であり、また、懇親会は、理事長・学長・学部長と直接お話しができるなど、大学をより身近に感じることができるよう

ついでに、留学、就職活動などの学生生活に関する情報交換が父母同士で行えるので、毎回楽しみにしている会員の方も多くいらっしゃいます。

以上のように、上智大学後援会は、大学に寄り添い、学生がより良い環境で学生生活を送ることができるようにお手伝いをしていきます。

多くの皆様のご理解とご入会をお待ちしております。

# 2023年度 上智大学後援会総会

## 学生生活を多方面から支援

5月13日、2号館17階国際会議場において、2023年度上智大学後援会総会が開催され、役員をはじめ、多数の会員(学生・保護者)が出席した。総会では、2022年度決算、2023年度予算、および2023年度役員改選の議案3件が審議され、全てが承認された。

2023年度の予算のうち、大学への寄付の総額は3932万2千円。寄付項目には100円朝食への支援やWEB面接用ボックス「テレキューブ」レンタル費用支援が含まれるほか、家計急変者への奨学金給付、派遣した。その後、懇親会が行われ、会員同士の交流に活用される。

また、役員改選の承認に伴い、2022年度副会長であった森本聡氏(総合人間科学部4年次生保証人)が第46代会長に就任した。

総会に続き、理工学部情報理工学科の矢入郁子教授により「人工知能S大学院初年度に寄せて」と題しての講演会が室内・後援会事務局で開催され、参加者は熱心に耳を傾けた。会場から「イメージがわかる」などの声も聞かれた。

▼電話(3238)3127

▼上智大学後援会ウェブサイト